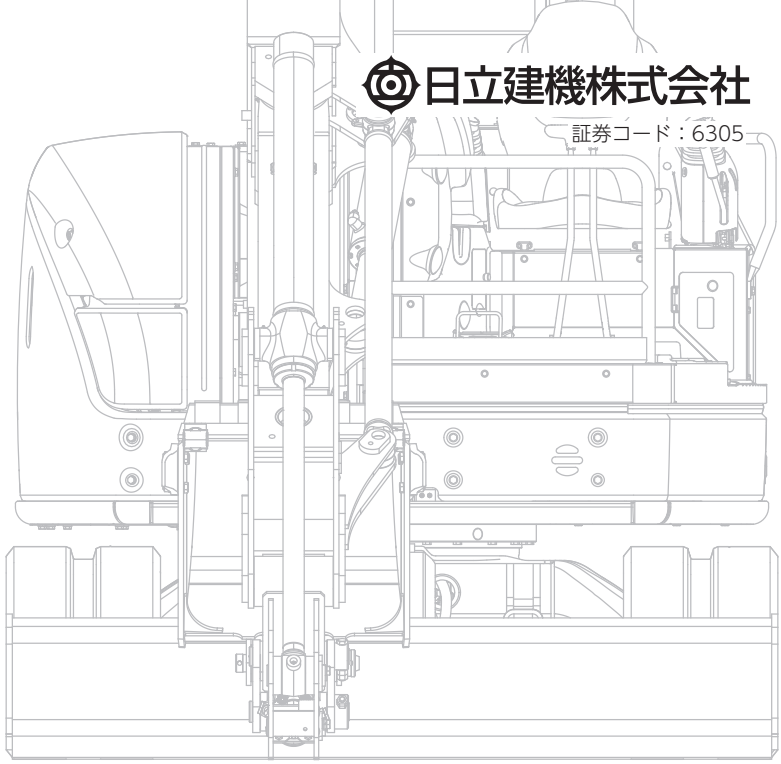
日立建機株式会社

証券コード：6305

株主通信

第52期 中間報告書

2015年４月１日 ～ 2015年９月30日



P1 ▶ 【株主の皆様へ】
収益確保をめざしてグローバルな
サポート体制の確立・シェア向上を推進

P3 ▶ 連結業績ハイライト

P4 ▶ 主要な事業内容

P5 ▶ 地域別売上収益の概況

P7 ▶ 連結決算概要

P9 ▶ 【ニュース&トピックス】
■中山由起枝選手、クレー射撃ワールドカップで優勝!!
■David Harvey氏が外国人として初の理事兼地域事業部長に就任
■「高度車体安定化制御技術」が日本機械学会賞（技術）を受賞

P12 ▶ 企業情報／株式の状況

※ 当冊子における記載金額及び株式数は表示単位未満を四捨五入して表示しています。

株主の皆様へ

収益確保をめざして グローバルなサポート体制の 確立・シェア向上を推進

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第52期第２四半期連結累計期間の当社グループにおける取り組みや、今後の施策についてご報告申し上げます。

2015年11月

代表執行役 執行役社長 土本 雄一

建設機械市場の需要は中国で大幅に落ち込み、マイニング機械市場も引き続き低迷しました。

当第２四半期連結累計期間における世界経済は、日本では緩やかな回復基調が続いており、米国では景気回復が続いています。西欧では消費、設備投資の増加が見られ、英国をはじめとして景気は緩やかに回復していますが、ロシアでは景気は後退しています。アジア地域においては、インドでは景気は持ち直しましたが、東南アジアでは輸出の落ち込み等により引き続き減速しています。中国では景気の停滞が継続しています。

建設機械市場については、日本では、ホイールローダ・ミニショベルは前年同期より増加しましたが、油圧ショベルは、大幅に落ち込みました。北米ではエネルギー関連の低迷により微減となりました。欧州では、全体需要は前年同期を下回りました。アジアでは、インドは回復しているものの、インドネシア・マ

2016年3月期第2四半期（累計）の連結業績

売上収益	3,651 億円	前年同期比 6.2% 減
営業利益	160 億円	前年同期比 44.7% 減
税引前四半期利益	109 億円	前年同期比 61.3% 減
親会社株主に帰属する四半期利益	68 億円	前年同期比 48.3% 減

レーシアを中心に減少しました。中国では大きく落ち込んだ状態が続きました。
　マイニング（鉱山）機械市場については、需要は引き続き低迷しました。

収益確保をめざしてグローバルなサポート体制の確立等、経営の効率化に取り組みました。

　このような情勢の中、当社グループは、収益確保をめざしてグローバルなサポート体制の確立とシェア向上、原価低減、事業・コスト構造改革を進めるなど、経営の効率化に取り組んできました。
　建設機械については、グローバルな研究・開発体制の構築と開発マーケティングの強化を推進すると共に、代理店の販売力・アフターサービス力の強化を図っています。また、お客様の機械を総合的にサポートするサービスメニュー「ConSite（コンサイト）」のグローバル展開や、部品供給体制の拡充等により、部品・サービス事業の拡大に努めています。
　マイニング機械については、高度な車体安定化制御を実現したリジッドダンプトラックAC-3シリーズの拡販に努め、鉱山機械の運行管理システムの提供や鉱山運営の効率化への取り組み等、日立グループの力を合せてより高度なレベルの顧客サポート体制の構築を進めています。
　以上の結果、売上収益については、3,651億円（前年同期比6.2%減）となりました。営業利益は160億円（同44.7%減）、税引前四半期利益については109億円（同61.3%減）、親会社株主に帰属する四半期利益は68億円（同48.3%減）となりました。

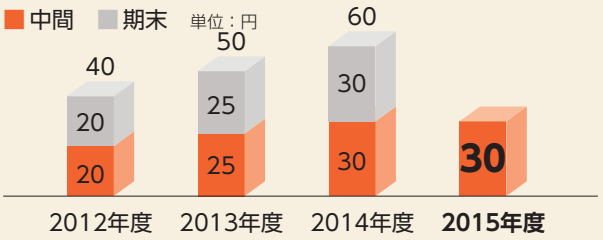
厳しい環境の中、一層の経営の効率化を進め、収益確保に努めていきます。

　通期の当社グループを取り巻く事業環境は一段と悪化しています。建設機械の需要見通しは、油圧ショベル新車需要が中国・インドネシア・ロシアCIS等の新興国の更なる減速に加えて先進国においても減速傾向にあり、第１四半期決算発表時点の需要見通し16万２千台に対し、今回14万８千台へ１万４千台下方修正するに至りました。マイニング機械の需要見通しについては、前年比１割減と予想しています。業績予想については、売上収益7,800億円（前期比4.4減）、営業利益300億円（同52.5%減）としています。
　引き続き、厳しい環境が予想されますが、一層の原価低減や経営の効率化を進めることで、収益の確保に努めていきます。
　なお、中間配当金につきましては、１株当たり30円とすることを取締役会にて決議いたしましたことをご報告いたします。
　株主の皆様におかれましては、当社グループの企業活動に引き続きご理解賜りますと共に、今後とも一層のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2016年3月期連結業績予想

売上収益	**7,800**億円	前期比 **4.4%減**
営業利益	**300**億円	前期比 **52.5%減**

1株当たり配当金



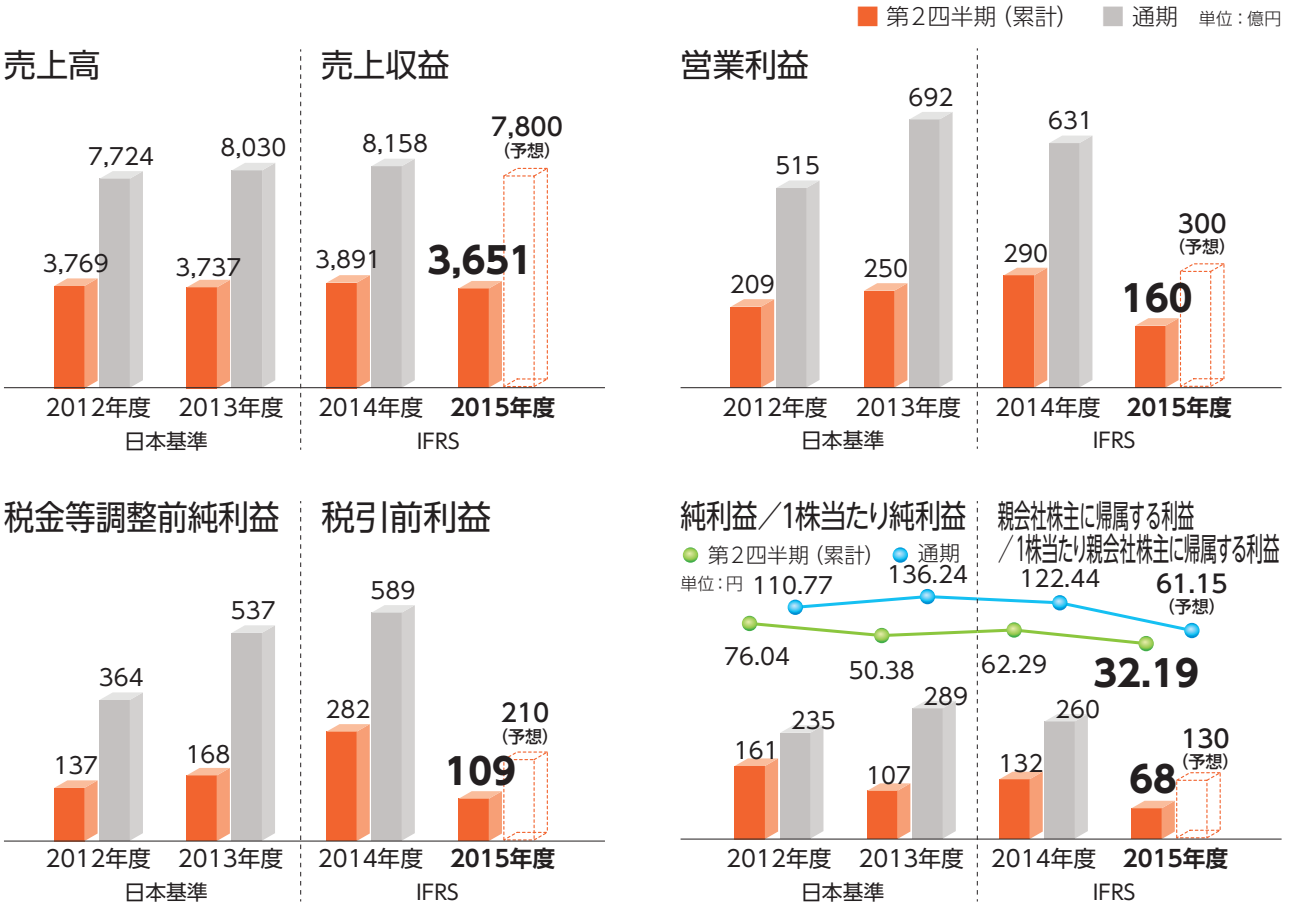
連結業績ハイライト

ポイント

1 売上収益は、日本・中近東・北米・インドが増収したものの、中国・オセアニア・ロシアCISが大幅に減収したことから、前年同期比6.2%の減収。

2 営業利益は、為替影響や間接費の削減はあるも、物量減と地域・製品構成の差により前年同期比130億円の大幅減益。

3 営業利益・税引前四半期利益・親会社株主に帰属する四半期利益は、物量減と地域・製品構成差により、対前年同期大幅減益。



※2015年３月期より国際会計基準（IFRS）に基づき連結財務諸表を作成しており、2014年度、2015年度においては、IFRSによる数値を掲載しています。

主要な事業内容

建設機械	
建設関連	中型・小型油圧ショベル、ホイール式油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ、バックホウローダ、クローラクレーン、基礎工事用機械、道路機械、ブルドーザ、クローラ式キャリア、モーターグレーダ
資源開発関連	超大型・大型油圧ショベル、油圧バックホウ船、リジッドダンプトラック、アーティキュレートダンプトラック
環境関連	自走式クラッシャ、土質改良機、シュレッダ、木材リサイクル機、スクリーン
商品開発関連	スーパーロング掘削機、解体作業機、スクラップ処理機、林業仕様機、電動ショベル、無線式操縦システム、双腕仕様機
機器関連	建設機械用油圧機器、汎用油圧機器
レンタル関連	建設機械及び建設関連製品の賃貸
中古車関連	中古建設機械等の販売
サービス関連	建設機械等の保守及びサービス、特定自主検査、部品販売、技術研修、鉱山機械の運行管理
ソフト関連	建設機械・部品等の運送、建設機械の割賦販売及びリース等のファイナンス

油圧ショベルZX120-5B

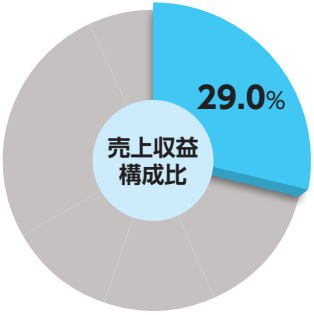
リジッドダンプトラックEH4000AC-3

ホイールローダZW80-5B

地域別売上収益の概況

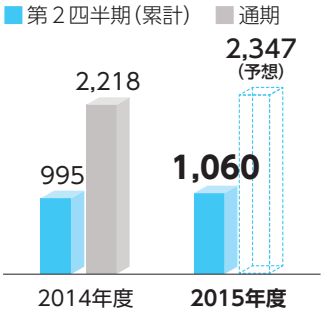
（単位：億円）

日本

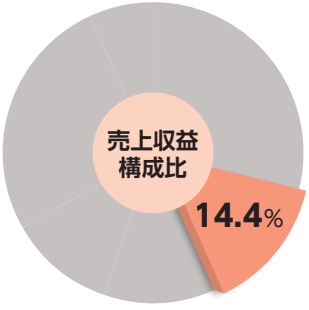


売上収益 1,060億円
（前年同期比 6.6%増）

- ホイールローダ・ミニショベルは増加したものの、油圧ショベルは駆け込み需要の反動を受け大幅に落ち込み。
- RSS（レンタル・セールス・サービス）が一体となり、お客様の増大を継続推進すると共に、小型建機セグメントへの営業活動に注力。

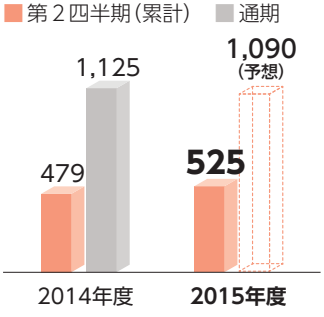


米州



売上収益 525億円
（前年同期比 9.6%増）

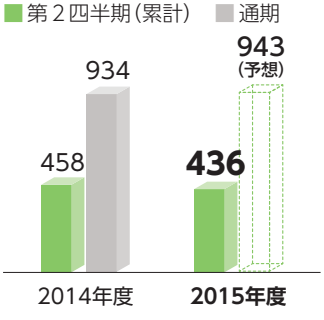
- 北米の建設機械需要は、原油安に伴い前年同期から微減。
- 中南米の建設機械需要は、前年同期を大幅に下回る。
- マイニング機械需要は、資源価格低迷により、米州全体で低調に推移。
- 各国の諸規制に適合した機械の生産体制を整え、北中南米で拡販を推進。



欧州

売上収益 436億円
（前年同期比 4.8%減）

- 欧州の建設機械需要は、前年同期を下回る。
- イタリアでは回復の兆しが見られ、ドイツでは微減、英国では前年を下回り、フランスは大幅な落ち込み。
- 各国代理店へのサポート強化や、低燃費型の油圧ショベルやホイールローダの積極的な拡販。

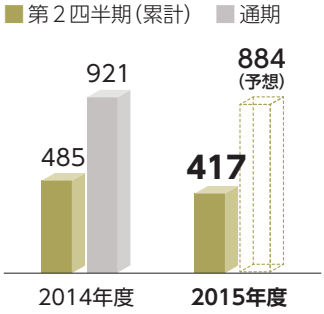


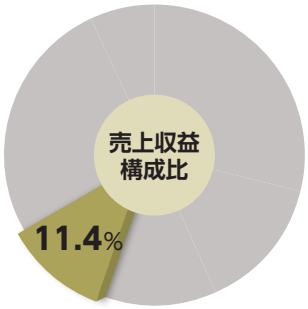
（単位：億円）

ロシアCIS・アフリカ・中近東

売上収益 417億円
（前年同期比 14.0%減）

- 日立建機ユーラシア製造LLCでは従来のロシア向けに加え、CIS諸国向けの生産・出荷を開始。
- 西アフリカでは代理店と共にインフラ関連向け建設機械の販売・サービスを強化。
- 中近東では、湾岸諸国向けにインド製油圧ショベルを導入し、新規顧客層を開拓。

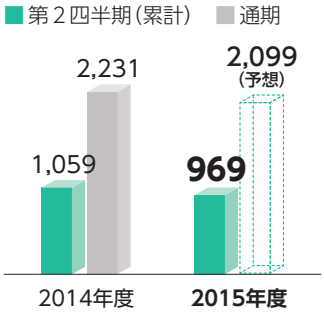


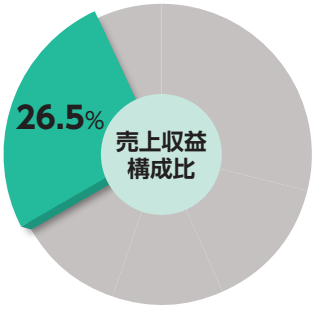


アジア・大洋州

売上収益 969億円
（前年同期比 8.5%減）

- インドネシア・オーストラリアのマイニング機械需要は引き続き低迷。
- 建設機械需要はタイ・フィリピンで堅調に推移。
- インドでは石炭・採石等、需要傾向が継続し、前年同期を上回る。
- 代理店の強化を図り、拡販に努める。

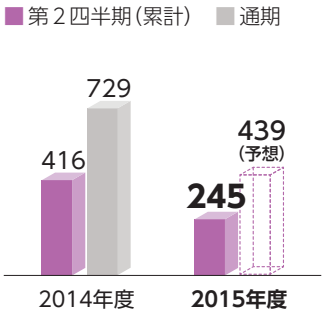


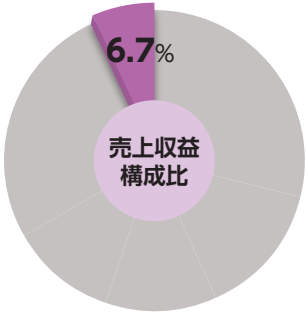


中 国

売上収益 245億円
（前年同期比 41.2%減）

- 固定資産投資の伸び率は鈍化傾向。
- 現存工事の進捗停滞、新規工事の発注遅延等が影響し、建設機械需要は大幅な減少。
- 高稼働の地域・顧客にターゲットを絞った効率的な営業活動を推進。



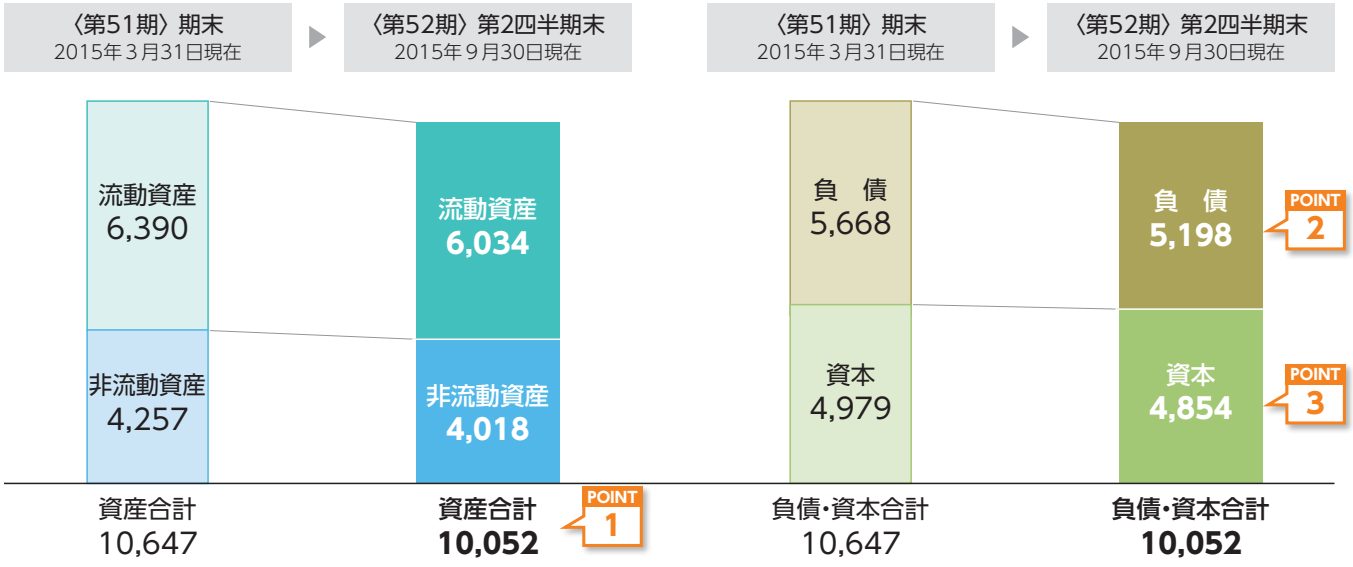


連結決算概要

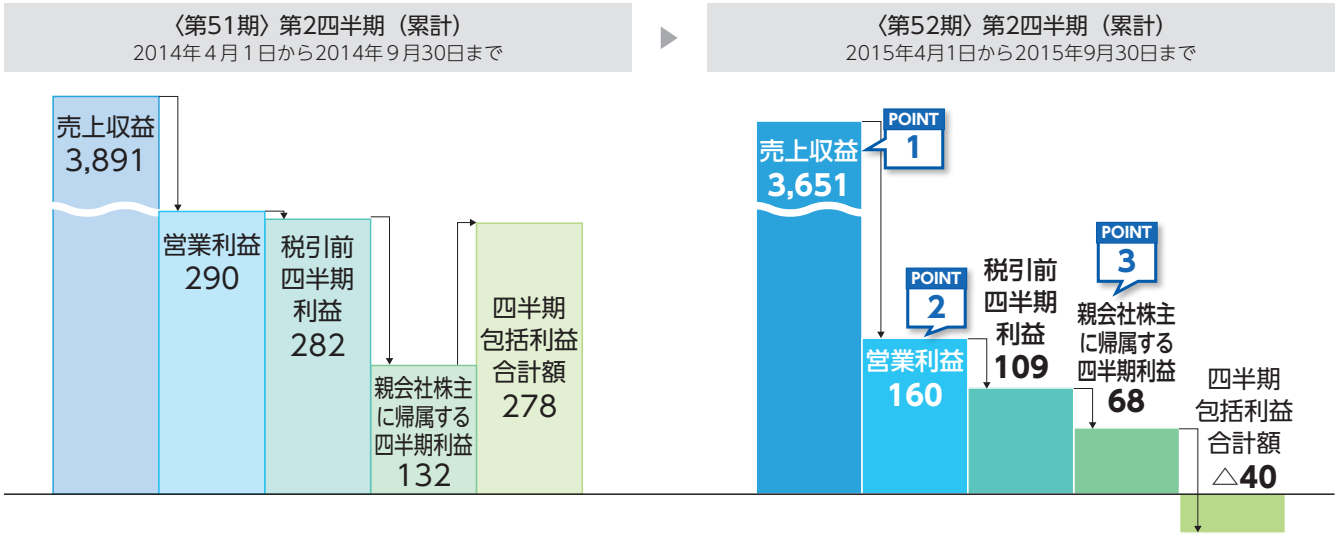
▶より詳細な情報は下記URLからご覧ください。
http://www.hitachicm.com/global/jp/ir/library/results/

(注)△印は、マイナスを示しています。

要約四半期連結財政状態計算書 (単位：億円)



要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書の概要 (単位：億円)



要約四半期連結財政状態計算書のポイント

POINT 1　資産合計
総資産は対前年度末比595億円の減少。

POINT 2　負債
現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債は、対前年度末比380億円の減少。

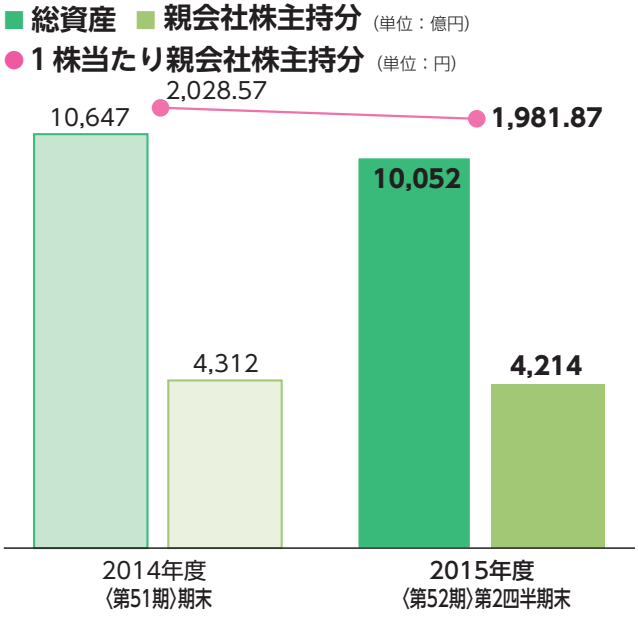
POINT 3　資本
親会社株主持分比率は1.4ポイント改善の41.9%。

要約四半期連結損益計算書のポイント

POINT 1　売上収益
売上収益は、前年同期に対し、中国等の大幅減収により6%の減収。

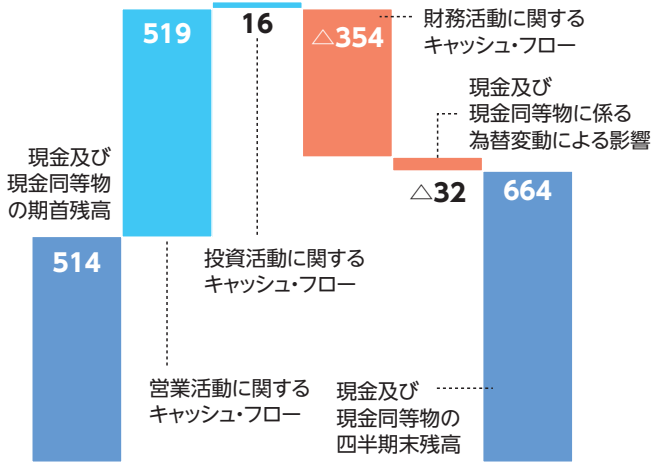
POINT 2　営業利益
営業利益は、物量減や地域及び製品の構成差により、前年同期比45%減少。

POINT 3　親会社株主に帰属する四半期利益
親会社株主に帰属する四半期利益も、新興国通貨安による金融費用増加もあり、前年同期比48%減少。



要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要（単位：億円）

〈第52期〉第2四半期（累計）
2015年4月1日から2015年9月30日まで



ニュース＆トピックス

4月 ▶ **「高度車体安定化制御技術」日本機械学会賞（技術）授賞式**

ニュース P11をご覧ください。

6月 ▶ 第51回定時株主総会開催

7月 ▶ 2016年3月期第１四半期決算発表

8月 ▶ **中山由起枝選手、クレー射撃ワールドカップで優勝‼**

スポーツ P10をご覧ください。

最新情報

10月 ▶ 2016年3月期第２四半期決算発表

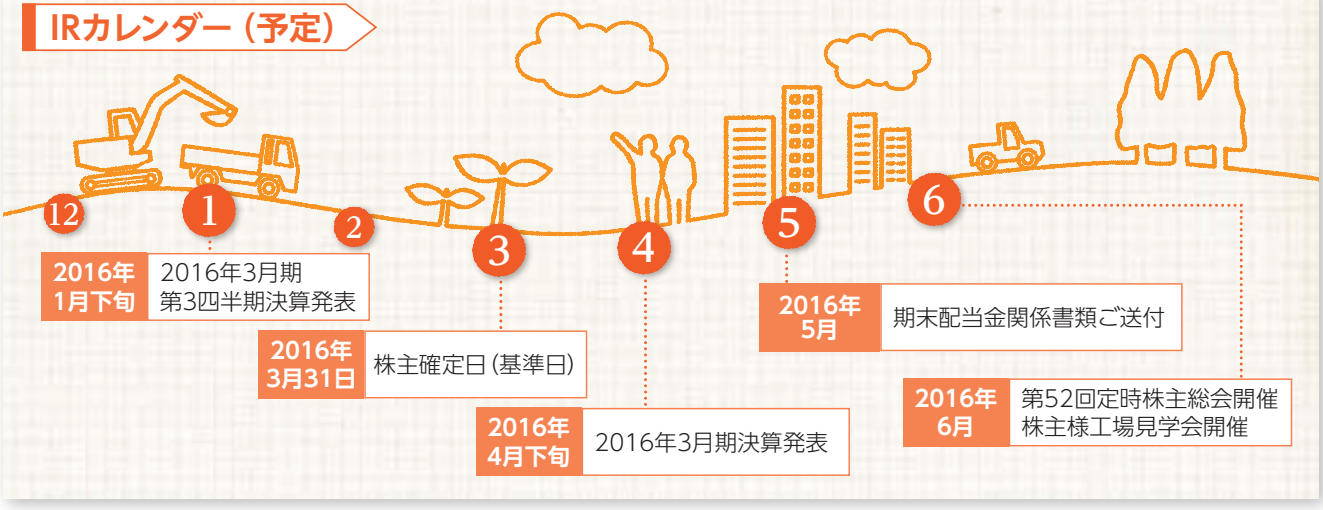
▶ 株式会社KCMを完全子会社化

フォーカス ▶ **David Harvey氏が外国人として初の理事兼地域事業部長に就任**

フォーカス P10をご覧ください。

今後の活動については、下記をご参照ください。

IRカレンダー（予定）



スポーツ　中山由起枝選手、クレー射撃ワールドカップで優勝‼

8月14日にアゼルバイジャン共和国のガバラで開催されたワールドカップのクレー射撃・トラップ女子種目で、当社クレー射撃部の中山由起枝選手が優勝し、来年リオデジャネイロで開催される五輪の日本の出場枠を獲得しました！（正式な五輪代表は、日本クレー射撃協会により、11月のアジア選手権後に決定されます。）

中山選手が獲得した金メダル

1対1で優勝を決めるゴールドメダルマッチでは林怡君選手（台湾）と競い、14対12（15点満点）で金メダルを獲得しました‼

中山選手からは、「自分を信じる心と諦めない心で最後まで集中して戦うことができました。自己最高得点を叩き出し、最高の大会となりました。たくさんの応援ありがとうございました。」とのコメントが寄せられました。

フォーカス　David Harvey氏が外国人として初の理事兼地域事業部長に就任

私は、1987年に日立のディーラーで仕事を始めて以来、多くのポジションを歴任し、この度、当社で初めての外国人理事兼地域事業部長に選任されました。

このような責任ある立場に選ばれたことは、非常に名誉であると同時に、当社のグローバル化における重要な一歩であると感じています。

私の例を見て、このような人財登用があり得ることを知っていただきたいと思いますし、また、私を最初の例として、ゆくゆくは当社の経営層に、様々な性別やバックグラウンドを持つ者が加わることを期待します。

世界各地に展開するディーラー網には様々な異なる意見がありますが、私は、当社ビジネスを更に強靭かつ強力にするために役立つ意見を経営層に提供するように努めます。

日々、私達は挑戦すべき多くの重大な事柄に直面しますが、風通しの良いコミュニケーションによって、常に高い社会的責任の志を持ち、優れた技術的優位性を持つ最高級の製品とサービスをお客様に提供し続けることができます。

最近、私達は“One Hitachi”のコンセプトのもと、オーストラリアのシドニーにおいて大規模なマイニング展に出展し、当社だけでなく㈱日立製作所からも提供可能な多くの製品及びサービスを披露しました。これは非常に高い評価をいただき、スタッフ全員が、自分達がいかに素晴らしい会社で日々仕事をしているかを強く感じました。同時に私達は、世界の建設機械メーカートップ３の一角を占めることができると確信したのです。

ニュース

「高度車体安定化制御技術」が日本機械学会賞（技術）を受賞

当社は、このたびマイニングダンプトラック向けに、㈱日立製作所と共同で開発した「高度車体安定化制御技術」について、2014年度の「日本機械学会賞（技術）」を受賞し、授賞式が、本年4月17日に執り行われました。

本賞は、一般社団法人日本機械学会（1897年創設）により、日本の機械工学と工業の発展を奨励することを目的として、1958年から実施されている長い歴史のある賞です。今回受賞した日本機械学会賞（技術）は、機械工業に関する新技術や新製品、システムの開発に対し、①独創性、新規性、②品質又は性能の相対的優秀性、③生産性の向上を通じた経済及び社会への貢献、④機械工学・工業との関連性、⑤波及効果又は実績について、優れたものを表彰する制度です。

東京・明治記念館で行われた授賞式

受賞した「高度車体安定化制御技術」は、リジッドダンプトラックAC-3シリーズに搭載されており、各種センサーやレバー、ペダルからの情報を、ドライブシステムコントローラに入力・解析処理を行い、インバータを通して左右のホイールモータに独立した駆動指示を伝えることにより、走行時の車体挙動の安定化を実現するものです。

今回受賞した技術の中では、特に、車体のピッチング（揺れ動き）を低減することにより荷こぼれを防ぐと共に、オペレータの乗り心地を改善する「ピッチング抑制制御」と、走行旋回時の横滑りを防止して、安定感のある旋回走行を実現する「横滑り防止制御」の2つの制御技術が評価されての受賞となりました。

「高度車体安定化制御技術」を搭載したEH5000AC-3

当社は、今回受賞の技術をはじめ、自社技術に日立グループの技術を融合させ、常にお客様の安全性や生産性の向上を念頭に置いた高付加価値な製品を開発し、お客様の「身近で頼りになるパートナー」をめざして、世界の産業の発展に貢献していきます。

■今回評価を受けた制御技術

1. ピッチング抑制制御

凹凸路面の乗り越え、急停止や登坂走行時の前後のピッチング（揺れ動き）を判別し、ホイールモータのトルクを調整することで、車体のピッチングを低減して、荷こぼれを防ぐと共に、オペレータの乗り心地を改善し、更には車体へのダメージを低減する制御技術です。

2. 横滑り防止制御

ハンドル、アクセルやブレーキ操作に応じて生じる車体の安定度合いを、各種センサーから得られる車体の横方向の加速度、ヨーレートや操舵角を常時監視しながら判断し、ホイールモータのトルクを調整することで、走行旋回時の横滑りを防止して車体の動きを滑らかにし、オペレータの意図通りの安定感のある旋回走行を実現する制御技術です。

企業情報／株式の状況（2015年9月30日現在）

会社概要

商号	日立建機株式会社 Hitachi Construction Machinery Co.,Ltd.
本店所在地	東京都文京区後楽二丁目5番1号
資本金	81,576,592,620円
従業員数	21,579名
ホームページ	http://www.hitachicm.com/global/jp/ （電子公告も上記ホームページよりアクセスいただけます。）

日立建機　検索

株主・投資家の皆様に有用な情報をまとめて掲載しています。

株主・投資家向け情報

http://www.hitachicm.com/global/jp/ir/

こちらのページでは以下のようなコンテンツや、さまざまなIR資料をタイムリーにご覧いただけます。

- **トップメッセージ**

日立建機グループのこれから等を社長の生の声でご紹介しています。

- **中期経営計画**

成長に向けた取り組みである中期経営計画「GROW TOGETHER 2016」についてご紹介しています。

- **個人投資家の皆様へ 日立建機ってどんな会社？**

日立建機グループをわかりやすく解説。株主様の工場見学会等さまざまな取り組みについてもお伝えしています。

役員・委員会

取締役

取締役会長※
川村　隆

取締役※
小豆畑　茂

取締役※
外山晴之

取締役※
平川純子

取締役※
三田村秀人

取締役
岡田　理

取締役
桂山哲夫

取締役
住岡浩二

取締役
辻本雄一

取締役
平岡明彦

（注）※印を付した取締役は社外取締役です。

執行役

代表執行役	執行役社長	辻　本　雄　一※
代表執行役	執行役専務	住　岡　浩　二※
	執行役専務	平　岡　明　彦※
	執行役常務	太　田　賢　治
	執行役常務	大　野　俊　弘
	執行役常務	落　合　泰　志
	執行役常務	桂　山　哲　夫※
	執行役	池　田　孝　美
	執行役	角　谷　守　朗
	執行役	杉　山　玄　六
	執行役	田　淵　道　文
	執行役	玉　樹　正　人
	執行役	長谷川　　久
	執行役	平　野　耕太郎
	執行役	福　本　英　士
	執行役	本　井　　正

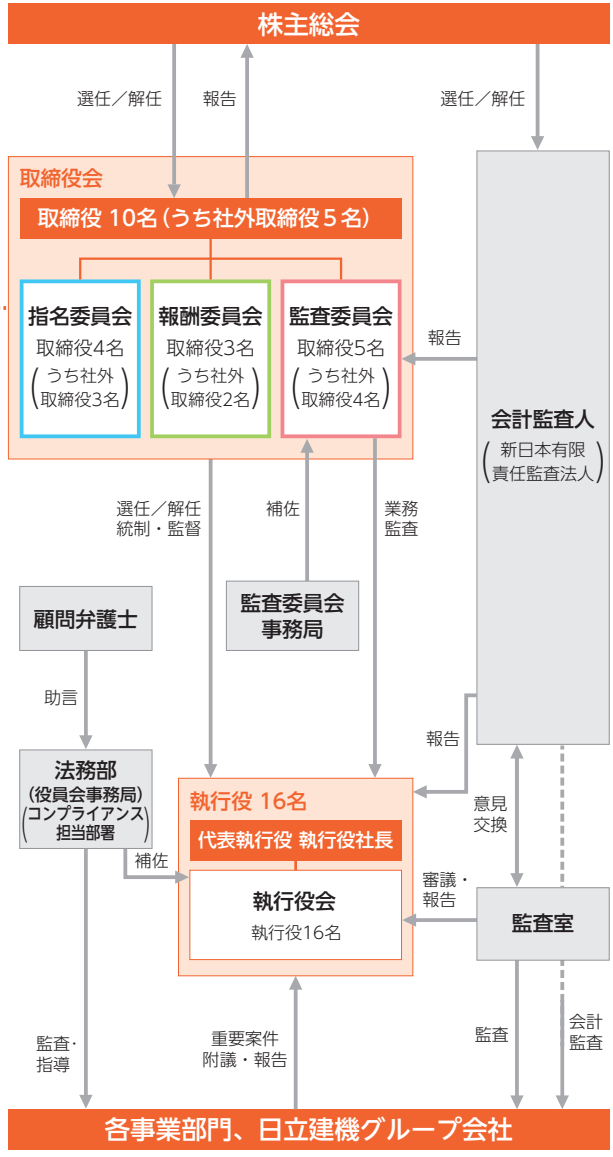
（注）1. ※印を付した執行役は、取締役を兼務しています。
2. 役職ごとに五十音順にて表記しています。

指名委員会
川村　隆
小豆畑　茂
三田村　秀人
辻本　雄一

報酬委員会
辻本　雄一
小豆畑　茂
川村　隆

監査委員会
岡田　理
小豆畑　茂
外山　晴之
平川　純子
三田村　秀人

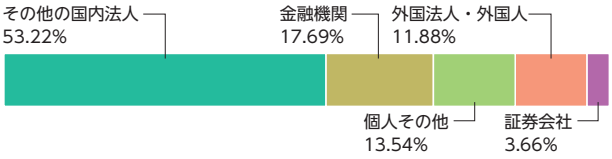
コーポレートガバナンス体制　概要図



株式の状況

発行済株式の総数	215,115,038株
株主数	45,469名

株式所有比率



大株主（上位10名）

株主名	所有株式数（千株）	持株比率（%）
㈱日立製作所	108,058	50.82
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	12,073	5.68
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（信託口）	9,985	4.70
BNPパリバ証券㈱	3,468	1.63
資産管理サービス信託銀行㈱（証券投資信託口）	3,314	1.56
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	1,496	0.70
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（信託口9）	1,426	0.67
㈱日立アーバンインベストメント	1,295	0.61
J.P. MORGAN WHITEFRIARS INC. LONDON BRANCH	1,261	0.59
資産管理サービス信託銀行㈱（投信受入担保口）	1,219	0.57

（注）1. 当社は、自己株式2,507,005株を保有していますが、上表には含めていません。
2. 持株比率については、自己株式2,507,005株を除いて算出しています。

株主メモ

事業年度	■毎年４月１日から翌年３月末日まで
剰余金の配当の基準日	■毎年３月末日及び毎年９月末日
定時株主総会	■毎年６月開催
公告方法	■電子公告 (http://www.hitachicm.com/global/jp/)
株主名簿管理人	■東京証券代行株式会社 東京都千代田区大手町二丁目6番2号（日本ビル４階） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っています。
郵便物送付先、連絡先	■〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目８番４号 東京証券代行株式会社 事務センター 電話（0120）49-7009（フリーダイヤル）
住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	■お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きについては、東京証券代行株式会社にお申し出ください。
未支払配当金のお支払いについて	■株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
上場株式配当等のお支払いに関する通知書について	■配当金を銀行等口座振込（株式数比例配分方式を除きます。）又は配当金領収証にてお受け取りの場合、お支払いの際ご送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、株式数比例配分方式をご選択されている株主様は、お取引の証券会社等にご確認ください。

http://www.hitachicm.com/global/jp/

(お知らせ)
当社の株主名簿管理人である東京証券代行株式会社は、2016年１月12日をもって次のとおり移転します。
なお、郵便物送付先及び連絡先につきましては、変更ございません。

株主名簿管理人
東京証券代行株式会社
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
(神田錦町三丁目ビルディング6階)

株主様へのご案内

配当金の口座振込によるお受け取りについて

配当金のお受け取りは、口座振込をお勧めします。口座振込をご指定いただきますと、配当金支払開始日にご指定の銀行等の口座に配当金をお振り込みしますので、迅速･安全･確実に配当金をお受け取りいただけます。
※配当金のお受け取り方法の変更については、お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

今後の見通しに関する注意事項

本誌の記載内容のうち、将来に関する見通し、業績に関する計画等の歴史的事実ではないものについては将来予測であり、現在入手可能な情報から得られた会社の判断に基づいています。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素が含まれており、実際の成果や業績等は、記載の見通しとは大きく異なる可能性があります。

日立建機株式会社
〒112-8563 東京都文京区後楽二丁目５番１号
電話 (03) 3830-8064　http://www.hitachicm.com/global/jp/

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK